

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

## 新エネルギー委員会のお知らせ (第308回)

日時 平成28年2月7日(火)午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、水素運搬を容易にする新技術

解説 西出宏之早稲田大学理工学術院教授

3、『新エネルギー関連ニュース NO. 161』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る平成28年12月6日開催の第306回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して、中島委員長より開会挨拶がありました。自動車関連で大きな2つのニュースがあった。ドイツ連邦参議院が「2030年以降はエンジン車の新規登録は中止する」という決議を選択。これはエンジン車の死刑宣告であるが、今後どうなるのか。もうひとつは、トヨタが電気自動車に舵をとったというニュース。ハイブリッド車は、環境対策車ではないとされ、各種補助金を利用できないためだ。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・理化学研究所生体機能

触媒研究チームの中村龍平チームリーダーの経歴紹介がありました。

次に、中村龍平氏より、「電流発生菌と水中生物の多様性について」解説がありました。乱獲や環境悪化により、水産物の資源量は減少を続けている。また、CO<sub>2</sub>排出量削減は、環境悪化を防ぐために必要だが、産業活動との両立を図らなければならない。生物多様性を今後も維持して行くためには、環境変動の時系列データを取得し、人間の活動と生態系の活動を同一の単位に統一することを目指す必要がある。そうすれば、同じ土俵で議論することが出来る。アメリカのデイリー教授などが提唱している定量化システムを利用すれば、生物の呼吸、発酵、光合成といった代謝について、電子の流れや、電位差という統一言語で説明できることが分かってきた。下水道処理システムで活躍が期待されている電流発生菌を使った微生物燃料電池では、電位差の違いによって微生物の活性化をコントロールできることが分かっている。

魚の養殖に関する研究「有害プランクトンに対応した迅速診断技術」では、海底の生態系の環境電位をリアルタイムに計測し、制御する。今まで飼料の過剰投与によって水質の悪化、赤潮の発生などが起きていたが、これによって制御することで、養殖場の自浄効果を高めることが出来る。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.161』の解説がありました。今回は、○水とCO<sub>2</sub>からO<sub>2</sub>を発生させる人工光合成技術で、効率を従来の100倍以上にする薄膜形成手法を開発。○水素を燃料とする燃料電池船を開発、10月にテスト航行に成功。○太陽電池モジュールで、変換効率世界最高の24.37%を達成。○海流でタービンを回して電気をつくる海流発電システムを開発。鹿児島県で実証実験を行なう計画。○水素を大量につくれる新材料、再エネ水素製造の低コスト化に貢献。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 **千円** にご協力御願ひ申し上げます。

次回、2月7日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

**テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。**

**参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。**

**事務局宛FAX 03-3507-8587**

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)